

ハウディ・コードレスホン
パッセ

1988



1988年(昭和63年)

昭和55年5月、初めて登場したコードレスホンは、普通の電話機が持ち運べるという形のものだった。

レンタル商品としてのみ提供してきたコードレスホンは、昭和62年10月に電波法改正により自由化されたことからお買い上げいただくことができる商品が登場した。

特徴

「ハウディ・コードレスホンパッセ」は、小電力タイプのコードレスホンで、通話可能範囲は接続装置から半径100メートル程度(見通し距離)でフル充電しておけば、連続4時間程度通話可能。

デジタルコードレスホン
ピエットS100-Sセット

1995



1995年(平成7年)

平成7年7月、デジタルコードレスホンの子機を屋外に持ち出せるPHS(パーソナルハンディホンシステム)サービス開始。

特徴

「デジタルコードレスホンピエットS100-Sセット」は、PHSサービスに対応できるほか、同一の接続装置に登録した2台を持ち出しトランシーバのように使用することも可能。「ピエット」とは、“Personally I Enjoy Talking”の頭文字をとって「Piet」とし、「街角でおしゃれな電話機を持ちながら、自由に会話を楽しむ」という意味。また、英語(スコットランド地方)の俗語では、鳥類の“カササギ”から転じて「おしゃべり」という意味もある。

NTT FAXT-219CL
(でんえもん219CL)

1996



1996年(平成8年)

平成3年から「でんえもん」の愛称で提供してきたホームファクスは、留守番電話機能やコードレス子機を付加しながら普及していった。

特徴

「でんえもん219CL」は、留守番電話機能とコードレス子機を搭載したホームファクス。コードレス子機個別にダイヤルインを設定できる「子機別ダイヤルイン機能」やマイクロカセットを使用しないIC録音方式による「デジタル留守録」機能を搭載。

ハウディ・デジタル
コードレスホンDCP-4100

1997



1997年(平成9年)

平成10年2月のナンバー・ディスプレイ提供開始に先駆け、平成9年11月、ナンバー・ディスプレイ対応デジタルコードレスホン登場。

特徴

「ハウディ・デジタルコードレスホンDCP-4100」は、親機、子機のディスプレイに、かけてきた方の電話番号が表示され、あらかじめ登録した方からの電話は、名称も表示し、しかも、着信音も変えられる。また、かかってきた方の電話番号を5件まで蓄積できる等、ナンバー・ディスプレイをより便利に使うためのデジタルコードレスホン。なお、デジタルコードレスホンは、アナログ方式に比べ、通話品質や盗聴に対する防止機能も格段に向上した商品。